

助成事業実施報告書

団体名 武蔵野市立図書館朗読奉仕の会

代表者・役職名 氏名 塚川 さつき

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

視覚障がい者等読書サービス用録音機器(PC)の設備更新

2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

すべての人が読書を楽しめるようにと、目の不自由な人を対象に市報、新聞、蔵書の録音テープの作製を行うボランティアグループを1954年4月に発足させました。当初9名から始まった会も、現在90余名の会員が、新聞、雑誌、プライベートサービス、蔵書等の録音製作、対面朗読、出向対面朗読の活動をしています。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

デイジー図書製作にあたり、よりよい録音環境づくりを図っていききたい考えです。ボランティアの経済的負担を少なくするため、貸出し用、研修用にPC、周辺機器を揃えてきましたが、昨今の機器のグレードアップに当会のXPでは対応できなくなってきており、また、新人の録音研修にも支障をきたすようになってきました。このため、新しい機器を取り入れ、録音環境を整え、ボランティアがよりよい障がい者サービスを目指せるようにしていきたいと思えます。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

会員共用PCの刷新をします。

現在使用中のXP9台のうち、今回5台をWin10に替え、周辺機器の拡充とともに、会員の録音・編集活動の向上・効率化を図り、製作時間の短縮、プライベートサービスの充実等を図っていききたいと思えます。また、利用者の生活環境の変化に伴い、情報を速やかに提供できるテキスト化の準備も進め、視覚障がい者だけでなく、識字障がい者へのサービスも視野にいれた活動を目指す計画です。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

PCの刷新に伴い、周辺機器の改善、ネットを使った様々な情報へのアクセスも可能となったことで事務などの処理がスムーズに進み、会員の作業が軽減、本来の図書製作に専念しやすくなりました。また、今年度初めての試みとして、夏休みに、子供たちへのバリアフリー体験の一環として録音体験に使用し、「音訳」ということに触れてもらえました。PC刷新によって、XPに対応していない新しいソフトを入れることでテキスト化への準備を進め、テキストデイジー、マルチメディアデイジーへの取組みの準備も始めました。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

私たちの生活、社会環境は、AIの発達によって著しく変化しつつありますが、障がい者への支援は進んでいるとはいえ、様々なところで健常者との格差が広がっています。そのうちのひとつ「情報の格差」を少しでも解消することの一助として、今回の助成を受け、今までのボランティア活動を継続・充実させるとともに、利用者の希望に即したサービスの向上を目指して取り組んでいきたいと思えます。

7. 参考資料

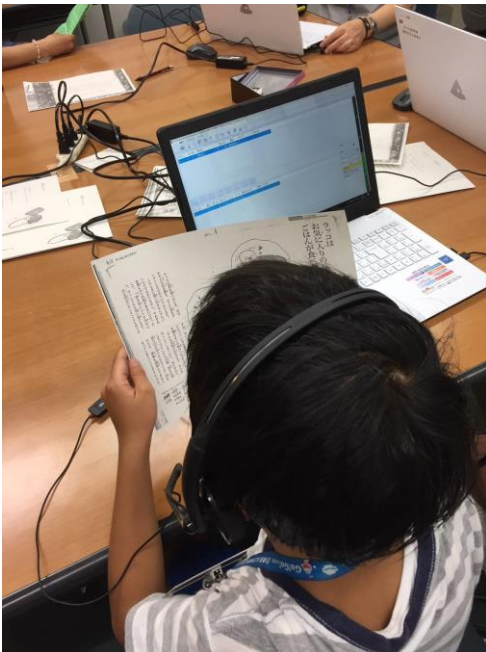
支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり 特になし

参考資料

「見て！ふれて！ためしてみよう！一日としょかんバリアフリー体験」

武蔵野市立中央図書館 2018年8月



(写真)

参加児童による、視覚障がい者向け録音図書作成体験の様子
(真如苑助成事業による新しいPCを使用)

購入機材への支援事業団体名の記入



2018年「真如苑助成事業」購入 と明記

